

木質ペレット輸入

今年に入り木質ペレットの輸入量が急増した。FIT制度によるバイオマス発電施設で燃料として使用されるケースが増えてきたことが追い風になっているようだ。3月時点の輸入量は、前年の183%と2倍近い。伸び率だけではPKS（パームやしじ）よりも大きくなった。

今年3月までの木質ペレット輸入量は、

36万25336トン（金額1億7961万円、18・8円／ギ）で、前年3月までが19万7044トンだったため、1・88倍も増えた。

FIT制度追い風に急増する外材燃料

2年前の2017年3月累計は、8万9003トンだったため、4・07倍と急増した。木質ペレットの輸入量を見ると、15年

から急激に増え始めている。14年が年間9・7万トン、15年が同23万トンと倍以上になり、16年34万トン、17年50万トン以上増えた。17年50万トンで16万トン増。昨年の18年は、105万トンで大台に乗った。

木質ペレットは、海外輸入の外材のカテゴリーに入る。FIT制度では1キロワット当たり24円で発電できる燃料。工場由来やPKSと同じ。木質ペレットの輸入単価は、19円台／ギが多い。PKSの単価の倍近い。主なユーザーもPKSと同じくバイオマス発電施設が多いが、PKSは今年も不安定。木質ペレットとの差は歴然だ。